

13. 市民からのメッセージ

(1) 電話、FAXによる問い合わせ

震災当初は断水の状況に関する問い合わせがほとんどであったが、その後は復旧の見込み、今後の通水予定を問うものが大多数を占め、局内の電話は鳴り続け、職員は対応に追われた。

「復旧の予定を教えてほしい」、「何日までに給水するとはっきり言ってほしい」という市民に対し、破損箇所・漏水箇所を一つ一つ確認しながらの作業であること、24時間体制で復旧作業にあたっていることなどを伝え理解を求めたが、予定通りの通水が確約できない状況等を考慮すると具体的な日程を示すことは出来なかった。

また、ふくしま市政だより速報版や市ホームページ、その他報道機関を通じて、復旧状況、給水所、通水後の留意点などについて可能な限りの情報発信に努めたが、市民からは、なかなか情報を得られない。広報不足であるとの指摘を数多く受けた。

(2) 平成22年度水道モニターの声（平成23年6月17日）

① モニターAさん

モニター会議で話題になりました緊急防災時、市の給水及び水道工事関係は、計画通りの配車及び復旧工事関係先等との協力が出来たのでしょうか。

非常時一人当たりの水の必要量について、一日3ℓということが聞かれますが、例えば4人家族の場合、12ℓ×7日間（断水日数）ですと約85～90ℓが必要かと思います。今回の場合の生活から考えますと大分不足する量ではないかと思いますがいかがでしょうか。

3月12日以降、各支所等で給水作業が行われましたが、1箇所の給水について、あまりにも広範囲過ぎではないでしょうか。遠方の方、高齢の方、自家用車の無い方<特にガソリン不足>等は、本当に最悪な状況下で待ち続けておったと思います。また、一回の給水量については少量で、時間がかかり過ぎたのではないのでしょうか。

タンクローリーと市民の持参する容器との繋ぎ関係を見ますと、必ずしも容器に合った給水蛇口ではなかったようにも見えました。

無駄な水、時間の無駄等一考要することと思います。きめ細かなタンクローリーの給水配置と方法をお願いいたします。

断水から給水（復旧）まで、一週間でしたが、遠方地区という地理的な点もあり仕方ないと思いますが、期間として長過ぎでした（12～19日）。また、断水後新聞等の情報はあるものの直接行政から町内会等に中間的報告もないままに給水（回覧と同時）となり、各家庭では余分な物品の購入等となり、経費負担と気苦労が重なったのが実態であります。通水後の濁り水が以外と長く感じましたがいかがなものでしょうか。

市水道断水のため、やむなく井戸水を利用された方もあります。毎日使用している方、市水道と共用している方、災害後トイレ等に利用した方などがあります。様々な方法で、その場の生活をして参りましたが、やはり心配は水質です。隣り近所と共用してもやはり水質という点で頭から離れませんでした。これからでも遅くはないと思いますし、非常を機会に、希望する家庭の井戸水検査を水道事業の一つとしてご検討いただければ幸いです。現在、県北地方では、摺上川ダムを中心とする水道水を利用していますが、福島第一原子力発電所等の事故発生を教訓に何らかの対策が必要だと思います。もし、対策があればお伺いたします。

県の中央を流れる阿武隈川を県民総ぐるみで環境浄化する必要があるのではないのでしょうか。市民として、一家庭として排水の浄化作用を各々に進める必要があるように思います。それらの課題を各市町村と共にPR、計画があれば県民に強く求めてほしいと考えます。また、地下水の利用について各事業所、各家庭で見直すことも必要ではないかと思います。地下水の地下産水地上消水とでもいいかもしれませんが、そのためには森の上を保護しなければならないと思います。

前年度の4回のモニター会議では大変お世話になりました。ありがとうございました。少ない機会、低出席率、また、意見交換の時間不足等は反省材料と個人的には思います。モニター制度は市として、どの程度数があるか分かりませんが、行政の中でレベルアップ、共通課題もあると思います。市民・モニターとして意見を出し、行政が聞くことの方がモニター制度かと思います。機会がございましたなら、また、何らかの形で参加したいと思います。

最後になりまして大変失礼ですが、今回の災害復旧に日夜ご努力された皆様、各関係先の方々には心からのお礼を申し上げます。さらなる水道事業のご発展をご祈念申し上げ、報告とさせていただきます。

② モニターBさん

すこし前まで、日本人は安全と水はタダみたいな感覚がありましたが、こうグローバルな社会になってきて、海外旅行などで他国から日本をみると、日本の善し悪しがハッキリとわかります。栓をひねるといつでも流れでてくる水道のありがたさ。

あまりに普通に使っているので、感じないで生活していますが、他国と比較するとよくわかります。衛生的ですぐ飲めるし、水量が豊富、我が家のある福島市の水道水は特においしい。

今回の震災では、1週間ほど断水で不自由な思いをしました。家族が交代で長時間並んで手に入った水を、大事に大事に使い、水道が以前のように使える様になったら一滴たりとも無駄にはすまいと思い、米を磨ぐ手に力が入りました。私も一度だけですが、学習センターでの給水で水をもらいましたが、我が家の様に働き盛りの年代の水もらいは、さして苦になりませんが、私の母の様に一人暮らしの高齢者にとっては、長時間立ちっぱなしで、予想以上な重さの水を持ち帰るのは大変な事に思われました。

給水車の配置場所が、学習センターより、各地区の小学校の方が近くて助かるのではないのでしょうか？

福島市ではなくても、未だに水道が復旧せず、不自由な思いをされている被災者の方々がお気の毒でなりません。懸命に工事に係わっている方々にも頭が下がる思いです。水道モニターの会議で、非常災害時の応急給水について、という内容で学習した時に頂いたウォーターバッグは今回大いに活躍しありがたかったです。

(3) 市民からの応援メール

① 3月17日

>今回の突然の地震による市内全域での断水。
>連日連夜、不眠不休での作業ご苦労様です。
>
>先日とある給水所にて、一部の心無い人の発言に
>胸が痛くなりました。
>
>水道局の方は頑張っておられる。
>声をからし、現状の説明を丁寧にされている。
>きっとご自身のご自宅も大変な事になっている。
>それなのに、一刻も早い復旧のためにと、市民のためにと。
>
>どうしてそんな方々に、非常な言葉を投げかける事ができるのか…
>
>
>今回、水があるという生活について色々考えさせられました。
>蛇口をひねれば簡単に綺麗な水が出てくる。
>これって、凄い事なんだ、ありがたい事なんだと。
>
>
>待っています。
>水が出る事を。
>
>願っています。
>皆さんが早くゆっくりと休める事を。
>
>寒い中の作業が多い事と思います。
>お身体ご自愛下さい。

② 3月21日

>蓬萊町の住民です。
>18日という思った以上の早い給水に家族一同みな感謝してます。
>久しぶりのお風呂の気持ちの良いこと！
>水のありがたさを実感しました。
>復旧に日夜頑張っている職員のみなさん、ありがとうございました！
>

(4) 市民からの手紙

平成23年4月6日

水道局の皆様へ

今回の震災で、あたり前のように使っていた水道、電気、ガスが使えなくてとても不便に思いましたが、私はとても便利な世の中に生まれてきたとも思いました。

私が生まれた時には暗い時には電気をつけて、のどが乾けば水が飲めるし温かい食べ物も食べられる。それがあたり前のように出来ていて、今回の震災でいっさいすべてが使えなくなった時、私は何も出来ず、真っ暗の寒い中不安で不安で仕方ありませんでした。情報が入って来なくて、今世の中がどうなっているのかとか明日から生活はどうなるんだろうとか不安なことばかりでした。

雪が降っているのに雷がなっていてあの長い地震は自然が怒っているように見えました。次の日にラジオで情報が入ってくると、とてもショックで涙が出てきて生きている事が奇跡だと感じました。生きなくちゃ！！という気持ちで、トイレが流れないなら川から水を運んで流したり、水道の少しだけ出てきた水も貴重な飲み水として使いました。水の確保はすぐにできました。それは水道局の皆様のおかげです。トラックで何回も往復してみんなの手元に届けてくれた事、本当に本当に感謝しています。震災の直後なのに働いている皆様に、今日も生きる事ができましたと伝えたいくらい水の大切さにも気付く事ができました。

本当にあの寒い中、水を運んでいただき、ありがとうございました。水が手に入った時、不安な気持ちも安心に変わりました。一生けんめいに働いている皆様を見ていて、明日から生活が少しずつ戻っていくような気がして、不安もなくなりました。明日は水道が通るかもしれないという少しワクワクした気持ちでいました。水道が通った時にはとても嬉しくて嬉しくて感謝しきれませんでした。

水が飲める、トイレが流れる、お風呂に入れる、今まであたり前のように思っていたのですが、一つ一つとても幸せな事になりました。生きていく事に必要な大切な大切な水を本当にありがとうございました。